

令和元年7月16日(火)

夏休みが近づいた

本日から1週間が過ぎると、待望の夏休みがやってきます。

磐城高校PTA会報原稿

新しい時代

磐城高等学校長 阿部武彦

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

年号が5月1日から令和に代わりました。新しい時代が到来したのですが、その年号が代わる以前から、大きな変化を予感しておりました。本校を取り巻く社会情勢の変化(特に進路へ向けた社会の変化)はめまぐるしく、まさに新しい時代が日進月歩のごとく到来しているのが実感です。

まず、今年度末の高等学校入学者選抜の方法が変わります。Ⅰ期選抜が2月上旬、Ⅱ期選抜が3月上旬、Ⅲ期選抜が3月下旬の日程から、前期選抜として、特色選抜と一般選抜を3月上旬に実施し、その後に後期選抜を実施する方法に変更されました。

特に、前期選抜において、選抜のための学力検査を全員が受験します。本校においては、特色選抜に申し込むものは、特色面接と特色検査を二日目に受験します。(詳細については、県教育委員会のホームページで確認ください。)

さらに、令和2年度末に行われる新たな大学入学共通テストは、この6月に実施大綱が発表され、教科の出題方針が示されたところです。

以前から、国語と数学に記述が導入されること、英語の4技能の資格試験が導入されることはご存知の方も多いと思われます。さらに、英語のリスニングテストの配点が現在の2倍になることと、各大学における英語の4技能資格試験の取り扱いの明細が次第に明らかになっているところです。

過去に、大学の入学試験の大きな制度改革は、昭和53年度末の大学入学試験共通テストの導入がありました。ちょうど、私もその当時、当事者であ

りました。

制度が新しくなる時には、情報が混乱します。また、その余波があらゆるところに影響します。現在の2年生からその改革が行われるのですが、制度改革の前年度である今年の卒業生の大学入学試験も、その余波があると考えます。

結論から言えば、第一志望を安易に妥協しないことが大切です。やりたいことをするために上級学校に進学するのですから、その本筋を失ってははいけません。また、安易な妥協や教科を削ることは、撤退を意味し、戦線を離脱する危険を伴います。

どんなときにもうろたえないためには、

- 1 きちんと実力をつけること
- 2 目先のことにうろうろしないこと
- 3 自分の得意科目を生かすためにその教科の配点や過去問にそぐう大学を選定し、その学校も受験すること
- 4 担任や、教科の信頼おける教員と情報を共有すること
- 5 保護者と生徒が、同じ戦略をもって情報を共有していくこと

が大切です。総力戦になる戦いですので、磐城高校というチーム力を生かしていくことが大切であると思います。

いつの世も、変わるべき時は変わり、その大きな余波に翻弄されない準備が大切であると考えますので、教職員一同、生徒諸君の成長と進路実現に力を結集してまいりますので、ご協力ご理解のほどよろしくお願いいたします。